

第5回循環器病対策情報センター講演会

日時 令和8年9月24日(木) 14:00 ~ 15:00

開催形式: Microsoft TeamsによるWEB配信

※ご参加には事前の参加申込(Forms)が必要です

座長 国立循環器病研究センター 循環器病対策情報センター長

飯原 弘二 先生

世界の疾病負荷研究(GBD) : 日本における活用の可能性と課題



演者 東北大学 災害科学国際研究所 グローバルヘルス政策学分野

教授 野村 周平 先生

参加申込方法

参加登録フォーム URL (<https://forms.cloud.microsoft/r/qpmC83urhd>)

または 右記 QR コードより **9月18日(金) 正午まで**にお申込みください

対象 : 医師、看護師、NCVC 職員、関係者

締め切り前でも受け付けを終了する場合がございます



国立循環器病研究センター 循環器病対策情報センター長 飯原弘二

情報発信啓発班 北井豪 吉村壮平

事業計画班 久松隆史 石上晃子 尾形宗土郎 連乃駿

情報収集・利活用班 北村哲久 金岡幸嗣朗

要旨

Global Burden of Disease(GBD)は、各国・地域の疾病負荷を共通の方法で推計し、死亡、疾病、障害、リスク要因などを比較可能な形で示す国際共同研究である。本講演では、GBD の基本的な考え方と日本の推計に用いられるデータ、都道府県別推計の特徴を概説する。その上で、循環器疾患を例に、人口動態統計、NDB、DPC、疾患登録など国内データとの関係を整理し、GBD を循環器病対策の評価・検討にどのように活用し得るのか、その可能性と留意点について議論する。

演者略歴

野村 周平 (のむら しゅうへい)

東北大学 災害科学国際研究所 グローバルヘルス政策学分野 教授

東京大学薬学部・同大学院を経て、Imperial College London で博士号を取得。東北大学災害科学国際研究所および医学系研究科グローバルヘルス政策学分野教授、慶應義塾大学医学部特任教授、国際医療福祉大学大学院特任教授。国際共同研究「世界の疾病負荷研究(GBD)」の日本研究を主導し、都道府県別の疾病負荷分析を行うとともに、健康日本 21 や日本のグローバルヘルス戦略に関する政策議論、G7 サミットにおける保健外交の議論などに関わってきた。2026 年には、The Lancet Regional Health – Western Pacific から、ランセット・グループとして 15 年ぶりとなる日本シリーズの座長を委嘱され、国内保健医療制度改革と国際保健戦略に関する 2 編の政策レビューを発表。GBD 科学評議会議員、世界栄養報告(GNR)の独立専門家グループ委員、保健システム・パフォーマンス評価に関する Lancet Commission 委員を務める。Stanford University・Elsevier が公表する「世界で最も影響力のある科学者トップ 2%」に 2021 年以降継続して選出されている。